

CITATION:Horey D, Flenady V, Heazell AEP, Khong TY. Interventions for supporting parents' decisions about autopsy after stillbirth *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 2. Art. No.: CD009932. DOI: 10.1002/14651858.CD009932.pub2.
CRG名:Cochrane Pregnancy and Childbirth Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月:29 October 2012
Clib issue No.;N/U:2013 Issue 2; Update

アブストラクト

背景: 乳幼児死亡において、死産は依然として最も解明が遅れている分野の1つであり、死産の原因に関する正確なデータは死産予防の第一歩である。剖検は依然として死産の死後検査の至適基準(ゴールドスタンダード)である。しかし、死後検査、特に剖検に関する意思決定は困難である。本レビューの目的は、死産を経験した両親が、剖検を実施するか否かも含めて、死後検査を行うか否かを決断するうえで役立つ方法の有効性を検討することである。

目的: 主要目的は、a) 死産後の剖検への同意に関する両親の意思決定を支援する介入の、両親へのアウトカムに関する有効性を検討すること、また、b) 剖検実施率を調べることであった。副次的目的は、両親にとっての介入の許容性、また、その実施の実行可能性に関連した問題を同定することであった。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2012年10月29日)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ、2012年、第10号)、MEDLINE(1966年~2012年7月24日)およびEMBASE(1980年~2012年7月24日)、Current Controlled Trials metaRegister(mRCT)(2012年9月18日)およびWHO International Clinical Trials Registry Platform Search Portal(ICTRP)(2012年9月18日)を検索した。また、Stillbirth and Neonatal Death Charity(SANDS)およびInternational Stillbirth Alliance(ISA)(2012年9月18日)のウェブサイトも検索し、その後、続いてすべてのISAメンバー組織のウェブサイトを検索した。

選択基準: 死産を経験した両親に対し、死産後のあらゆる検査を含む死後検査の選択肢に関する意思決定を支援し、通常のケアと比較するよう特別にデザインされた介入のランダム化比較試験(RCT)。

データ収集と分析: 2名のレビュー著者が独立して、選択基準に照らして論文を審査した。

主な結果: 本レビューの選択基準に一致する試験は同定されなかった。また、死産を経験した両親の支援に関連した40のウェブサイトを検索したところ、剖検またはその他の検死に関する文献や情報はほとんど検出されなかった。

レビューアの結論: 死産後の剖検またはその他の検死に関する両親の意思決定を支援するには、その時点における関係者の特別な知識と経験を活かす必要がある。

平易な要約(Plain language summary)

死産後の剖検について両親の意思決定を支援するための介入

死産の原因を理解することは両親にとって重要ですが、こうした情報を提供できるように死産した胎児の検査を

Copyright © All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care
施するかどうかに関する難しい意思決定について、両親を支援する方法についてはほとんど知られていません。このような検査としては、剖検、外科的検査、画像検査などの検査があります。得られた情報は、後に残された両親が今後の妊娠を計画したり、こうした妊娠を管理したりするうえで役立つ可能性があります。また、得られた結果は、死産の原因や妊娠を終了させる必要性についての調査にも役立つと考えられます。不十分な情報やコミュニケーションの不足によって、両親が意思決定を避けたり、あるいは剖検をしないという意思決定をしたことを後悔したりする場合があります。

こうした検査の同意を得るためのプロセスは、両親にとっても医療従事者にとっても困難であるため、意思決定を支援するための介入はおそらく有益と考えられます。この種の介入によって、医療従事者との話し合いを促し、両親が意思決定により深く関わるきっかけとなるような独自の情報を両親が得られるようになる可能性があります。

このレビューでは、研究論文の大規模な検索を実施しましたが、剖検またはこれに関連した検査に関する意思決定を支援する介入について検討したランダム化比較試験を見つけ出すことはできませんでした。国際的な死産関連組織に関連した両親および専門家グループの40のウェブサイトのその後追加された検索では、剖検またはその他の関連する検査についての情報はほとんど見つかりませんでした。死産を経験した両親は、死因の調査に関する自身の選択肢についてもっと知る必要があります。こうした難しい意思決定を最善の方法で支援する方法を見つけるには、さらに研究が必要です。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2015年 1月 8日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。